

青森県埋蔵文化財調査報告書 第132集

富ノ沢(1)・(2)遺跡Ⅱ

平成2年度

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第132集

富ノ沢(1)・(2)遺跡Ⅱ

送電線用鉄塔建設事業に係る発掘調査報告書

平成2年度

青森県教育委員会

序

むつ小川原開発事業に伴う埋蔵文化財の調査は、昭和46年度から実施してまいりました。

平成元年度には、2遺跡3箇所を発掘調査を実施しました。

本報告書は、送電線用鉄塔建設事業に係る発掘調査の成果をまとめたものであります。

本書が、埋蔵文化財の保護と活用に、いささかでも資するところがあれば幸いに存じます。

ここに、調査の実施から報告書の作成まで種々御指導、御協力を賜りました関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成3年3月

青森県教育委員会

教育長 山崎五郎

例 言

1. 本報告書は、平成元年度に発掘調査を実施したむつ小川原開発予定地内送電線用鉄塔建設事業に係る富ノ沢(1)・(2)遺跡の発掘調査報告書である。
2. 富ノ沢(1)遺跡の遺跡番号は50048番、富ノ沢(2)遺跡の遺跡番号は50049番である。
3. 本報告書の編集・執筆は島山昇が行った。
4. 石器の石材の種類鑑定は、県立板柳高等学校教諭 山口 義伸氏に依頼した。
5. 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお写真の縮尺は統一していない。
6. 土層の注記は、「新版標準土色帖」(小山、竹原; 1979)を参照した。
7. 本書に掲載した地形図(遺跡の位置)は、建設省国土地理院発行の五万分の一の地形図を複写したものである。

目 次

序

例 言

第Ⅰ章 調査に至る経過と調査要項	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	2
第Ⅱ章 調査の結果	6
第1節 富ノ沢(1)遺跡の調査	6
第2節 富ノ沢(2)遺跡の調査	7
第Ⅲ章 ま と め	8

第Ⅰ章 調査に至る経過と調査要項

第1節 調査に至る経過

昭和44年度に発表された新全国総合開発計画に基づき、青森県では「陸奥湾・小川原湖地域の開発」を発表した。その後昭和46年度には第一次基本計画として「むつ小川原地域開発構想の概要」が発表された。これと同時に、県教育委員会は開発予定地域内及びその周辺に分布する遺跡の所在確認のための分布調査を、翌47年度から開発に伴う遺跡の保護対策の資料作成等のため試掘調査を実施して、遺跡の性格・規模等の概要把握に努めた。

昭和49年度にはむつ小川原開発第二次基本計画の骨子が発表され、また昭和52年3月にはむつ小川原開発第二次基本計画に係る環境影響評価報告書が示され、同年8月の閣議了解を経てむつ小川原開発は本格的に進められることになった。

これ以後、各種施設の建設計画が具体化するに伴い、県教育委員会ではこれに関わる遺跡の試掘調査及び発掘調査を多数実施してきた。

本遺跡については、昭和48・49年度に試掘調査、昭和62年度に日本原燃産業株式会社用地内巡回道路建設に係わる発掘調査、昭和63年度から平成2年度までの3か年にわたる国道338号道路改良事業に係わる発掘調査、平成元年度に原燃PR館建設事業に係わる発掘調査（県教育委員会文化課）が実施されている。

昭和63年5月、東北電力株式会社より送電線用鉄塔建設事業に係る埋蔵文化財包蔵地の所在確認調査の依頼があった。これに対し、県教育委員会は現地調査を行い、鉄塔建設予定地のうちの3箇所が遺跡にかかっている旨、5月26日に回答した。その後、9月26日、東北電力株式会社より発掘調査費用の見積りについての依頼、平成元年3月20日に発掘調査の依頼があり、平成元年5月から、調査を実施することになった。

第2節 調査要項

1. 調査目的

むつ小川原開発予定地内送電線用鉄塔建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する埋蔵文化財の発掘調査を行い、その記録保存をはかり、地域社会の文化財活用に資する。

2. 調査期間

平成元年5月8日から同年5月19日まで

3. 遺跡名及び所在地

富ノ沢(1)・(2)遺跡 上北郡六ヶ所村大字尾駸字上尾駸

4. 調査面積

353㎡

5. 調査委託者

東北電力株式会社

6. 調査受託者

青森県教育委員会

7. 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

8. 調査協力機関

六ヶ所村

六ヶ所村教育委員会

上北教育事務所

9. 調査参加者

調査協力員 田中 澄 六ヶ所村教育委員会教育長

調査担当者

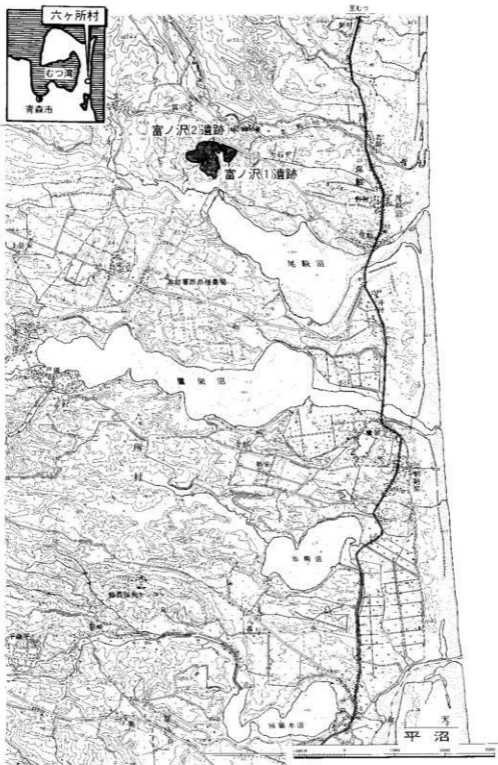
青森県埋蔵文化財調査センター

調査第二課長 北林八洲晴

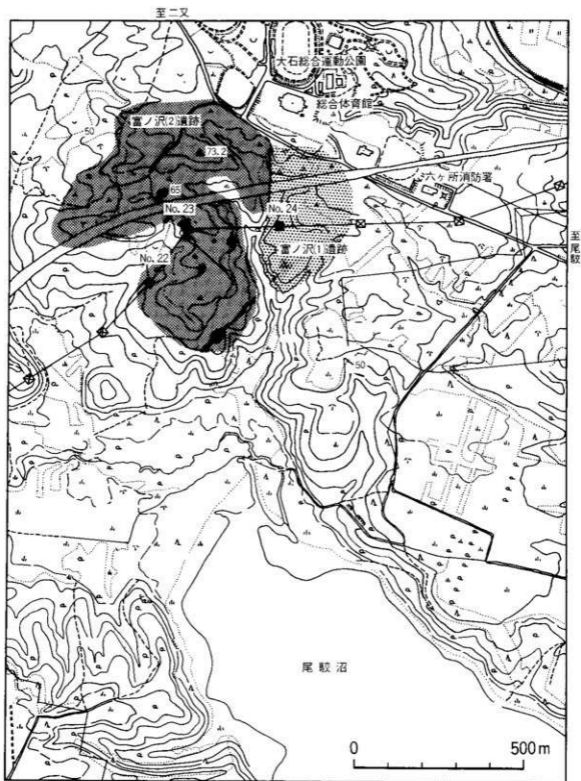
調査第三課長 三宅 徹也(現、県文化課埋蔵文化財班長)

主 査 島山 昇

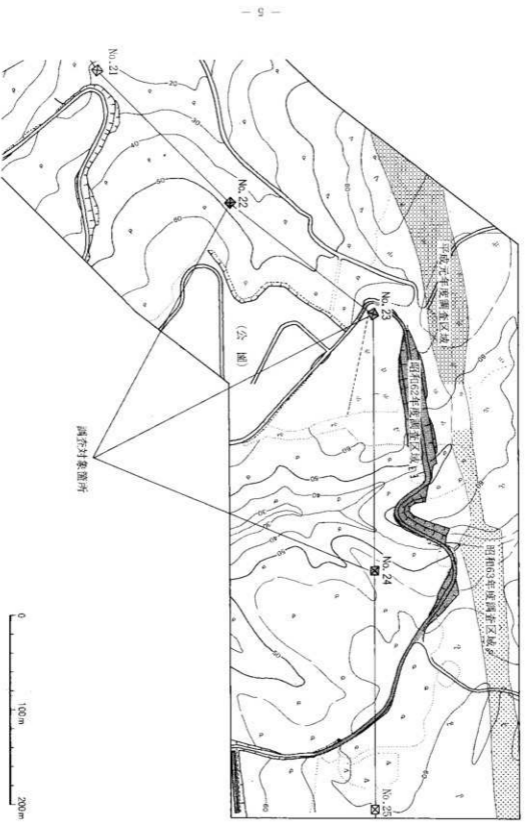
主 事 長崎 勝巳



第1図 遺跡の位置



第2図 調査地点の地形1

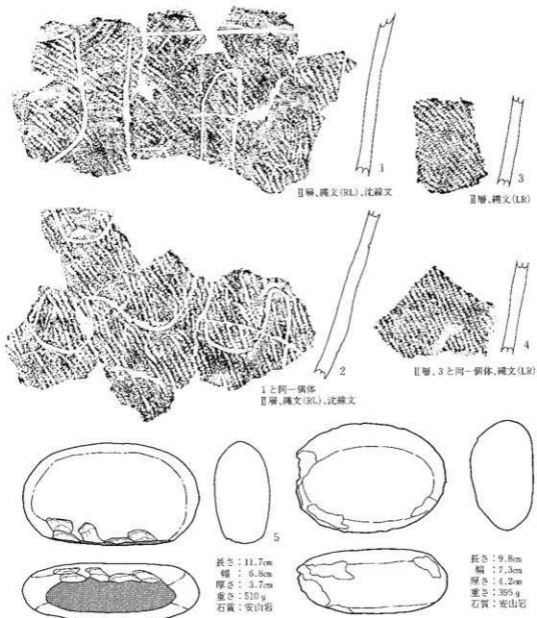


第3図 調査地点の地形 2

第Ⅱ章 調査の結果

第1節 富ノ沢(1)遺跡の調査

鉄塔番号24地点が本遺跡に含まれる。昭和62年度の調査区域から南へ20～30mほど離れている。遺構は検出されなかったが、縄文時代中期末葉の土器と石器(磨石2点)が出土した。



第4図 富ノ沢(1)遺跡、鉄塔No. 24地点の出土遺物

0 5cm

第2節 富ノ沢(2) 遺跡の調査

鉄塔番号22・23地点が本遺跡に含まれる。

鉄塔番号22地点は西側急斜面の中腹に位置しており、遺構・遺物は発見出来なかった。

鉄塔番号23地点は昭和62年度の調査区域に隣接しているが、土坑1基と若干の遺物を発見しにすぎない。検出した土坑は、長軸168cm、短軸105cmの楕円形を呈し、最も深い部分で確認面から52cmを計る。覆土は暗褐色土～褐色土が主体を占め、自然堆積の様相を呈している。覆土上位から、無文の土器片が出土している。このほか、本土坑周辺から縄文時代中期の土器片2点と不定形石器1点が出土している。



第Ⅲ章 ま と め

富ノ沢(1)・(2)遺跡は尾駈沼の北西岸に面し、標高60～70mの段丘上に位置している。今回の発掘調査は、送電線用の鉄塔建設事業に先立って行われたもので、調査面積の限られたものであるが、調査の結果、以下の成果を得ることが出来た。

富ノ沢(1)遺跡に含まれているのは、鉄塔番号24地点である。鉄塔番号24地点では、縄文時代中期後半の土器・石器が出土した。当地点の南側には良好な台地が広がっていることから、当該時期の集落が存在していることと思われる。

富ノ沢(2)遺跡に含まれているのは、鉄塔番号22地点と23地点である。鉄塔番号22地点は、台地の西側急斜面に位置しているためか、遺構の検出も遺物の出土も見られなかった。鉄塔番号23地点は、昭和62年度の調査区域の南側に隣接しており、このときに確認された集落の一部を調査したことになる。今回の調査では、土坑1基を検出したにすぎないが、周辺にはまだ多数の遺構が存在しているものと思われる。



富ノ沢(1)遺跡
(鉄塔No. 24地点)

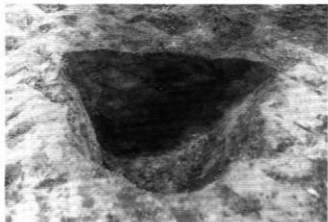


富ノ沢(2)遺跡
(鉄塔No. 23地点)



富ノ沢(2)遺跡
(鉄塔No. 22地点)

写真1 作業風景



堆積状況



北方から



西方から

写真2 鉄塔No.22地点で検出した土坑



第4图 1



第4图 2



第4图 3



第4图 4



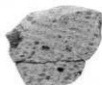
第4图 6



第4图 5



第5图 1



第5图 2



第5图 3



第5图 4

写真3 出土遺物

青森県埋蔵文化財調査報告書 第132集

富ノ沢(1)・(2)遺跡Ⅱ

—送電線用鉄塔建設事業に係る発掘調査報告書—

発行年月日 平成3年3月29日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒030-02 青森市大字新城字大田内158-15
電話 0177-88-5701

印刷所 東北印刷工業株式会社
〒030 青森市合道・丁目2番12号
電話 0177-42-2221
